

福祉サービス第三者評価結果報告書

2011 年 3 月 4 日

東京都福祉サービス評価推進機構
財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 160-0017
東京都新宿区左門町3番地
所在地 左門イレブンビル3階
特定非営利活動法人福祉総合評価機構

評価機関名

認証評価機関番号 機構 03 - 081

電話番号 03-3352-6730

代表者氏名 清水 康之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号	
		(規定により氏名非公表)		福祉	H0303063
		(規定により氏名非公表)		福祉	H0702006
		(規定により氏名非公表)		経営	H0304082
福祉サービス種別	認可保育所				
評価対象事業所名称	バオバブ保育園ちいさな家				
事業所連絡先	〒	206-0002			
	所在地	東京都多摩市一ノ宮3-1-16			
		042-375-4701			
事業所代表者氏名	遠山 洋一				
契約日	2010 年 7 月 1 日				
利用者調査票配付日(実施日)	2010 年 7 月 27 日				
利用者調査結果報告日	2010 年 9 月 29 日				
自己評価の調査票配付日	2010 年 7 月 26 日				
自己評価結果報告日	2010 年 9 月 29 日				
訪問調査日	2010 年 10 月 7 日				
評価合議日	2010 年 12 月 6 日				
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査実施にあたり、理解促進のため、調査票の配付時に調査の趣旨や第三者評価制度の概略を記した依頼状を添付するとともに、園内掲示用のポスターを作成した。また調査開始後に提出御礼と未提出者への呼びかけをかねたチラシを全対象者に配付し、提出促進の一助とした。事業所職員対象の説明会では、所定の事項の説明のほか、評価項目への理解を深めることについても配慮し、自己評価実施にあたっての質問を随時受け付ける旨を伝え、よりの確な自己評価実施に配慮した。				

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2011 年 2 月 28 日

事業者代表者氏名

印

〔利用者調査：認可保育所〕

(事業所名：バオバブ保育園ちいさな家)

調査対象	調査開始時点での本園の利用世帯30を対象として実施した。 なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。
調査方法	調査票及び調査項目は標準様式に準拠した。調査票に添付の封筒による機関への直接郵送にて回収し、調査結果は選択式設問・自由回答ともすべて園に報告した。なお自由回答の取り扱いについては、回答者の匿名性に配慮して、表記の加工などの処理を適宜行っている。
利用者総数	30
共通評価項目による調査対象者数	30
共通評価項目による調査の有効回答者数	17
利用者総数に対する回答者割合(%)	56.7

利用者調査全体のコメント

総合的な園に対する満足度は「大変満足」64.7%・「満足」35.3%の計100%で、有効回答者全員が満足と答えている。自由意見では「きめ細やかな保育に安心して任せており、本人の自主性や身の丈に合った行動を大切にしている姿勢は、効率だけを重視した保育ではなかなか実施できないと思うので、これからも大切にしてほしい」「送迎時に子どものことだけでなく、親がリラックスできるような楽しい話もしてくれ、職員の方とのコミュニケーションを楽しみにしている」「育児ノートには日々の子どもの様子や親の心配事・相談事への返答など、親身になって対応してくれていて、非常に心強く、安心」「食事や遊び、きめ細やかな対応がありがたい」などの声が寄せられている。さらなる向上を望む意見としては、職員の体制や保護者とのコミュニケーションなどに関するものが見られた。
設問別では「食事」「急な利用時間変更への対応」「健康管理」「傾聴姿勢」「要望や不満への対応」など15問中13問で80%台～100%の高い支持を得ており、それ以外の2問でも50%台後半から70%弱の支持を得ている。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	16	1	0	0
選択の割合(「無回答・非該当」を除く・以下同)は、「はい」が94.1%、「どちらともいえない」が5.9%となっている。 自由意見は「体調に合わせてメニューを変更してくれたことがあり、とてもよかった」「安心している」「アレルギーへの配慮はあるが、除去だけでなく代替してもらえるととってもよかった」の3件があった。				
2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	14	1	0	2
「はい」が93.3%、「どちらともいえない」が6.7%となっている。 自由意見は「保育園の問題ではなく、制度の問題として、1歳児クラスの職員数はもっと多くないと、散歩にも行けない?」と思っ ている」の1件があった。				
3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	13	0	0	4
「はい」が100.0%となっている。 自由意見には記入がなかった。				

〔利用者調査：認可保育所〕

(事業所名：バオバブ保育園ちいさな家)

4. 子どもの体調変化への対応(処置・連絡)は、十分か	16	1	0	0
<p>「はい」が94.1%、「どちらともいえない」が5.9%となっている。 自由意見は「延長時間でのお迎えの際も、尋ねればすぐ担任の先生と連絡をとってくれ、安心できる」「夕方に熱が出たと電話されても、もう帰る時間に近いので、いらぬと思う」の2件があった。</p>				
5. 安全対策が十分取られていると思うか	14	1	0	2
<p>「はい」が93.3%、「どちらともいえない」が6.7%となっている。 自由意見は「園内の職員さんの間では確かに外部侵入への対策は取られているが、保護者の意識が低いのか、玄関をすぐにかけてしまう人がいる」の1件があった。</p>				
6. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	14	3	0	0
<p>「はい」が82.4%、「どちらともいえない」が17.6%となっている。 自由意見には記入がなかった。</p>				
7. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	15	1	0	1
<p>「はい」が93.8%、「どちらともいえない」が6.3%となっている。 自由意見は「お便りで様子や考え方を載せてくれるので、ありがたい(園の方針がわかりやすい)」「毎日のノートがとてもありがたい」「ノートが中心になってしまい、直接話す機会は少ない。両方の都合で」の3件があった。</p>				
8. 保護者の考えを聞く姿勢があるか	16	0	0	1
<p>「はい」が100.0%となっている。 自由意見には記入がなかった。</p>				
9. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか	14	1	0	2
<p>「はい」が93.3%、「どちらともいえない」が6.7%となっている。 自由意見には記入がなかった。</p>				
10. 一人ひとりの子どもは大切にされていると思うか	15	2	0	0
<p>「はい」が88.2%、「どちらともいえない」が11.8%となっている。 自由意見は「とても大事にされていると感じる」「どうしても集団生活なので、その子にあったケアは担当する職員さんによって、または人数によって、日々違うと感じる」の2件があった。</p>				

〔利用者調査：認可保育所〕

（事業所名：バオバブ保育園ちいさな家）

11. 職員の対応は丁寧か	16	1	0	0
<p>「はい」が94.1%、「どちらともいえない」が5.9%となっている。 自由意見は「すべての職員の方が……というのは難しいようで、笑顔が少ない職員もいる」の1件があった。</p>				
12. 要望や不満を事業所に言いやすいか	7	5	0	5
<p>「はい」が58.3%、「どちらともいえない」が41.7%となっている。 自由意見は「保育を円滑に行うためだと思うが、全般的に対応が形式的な印象があり、要望を伝える発想はない。決まりの中でのなるべく対応するようにしている」「何となく言いにくい」の2件があった。</p>				
13. 利用者の要望や不満はきちんと対応されているか	11	0	0	6
<p>「はい」が100.0%となっている。 自由意見は「実行してくれるかはわからなくても、検討してくれる感じはある」の1件があった。</p>				
14. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか	11	0	5	1
<p>「はい」が68.8%、「いいえ」が31.3%となっている。 自由意見には記入がなかった。</p>				
15. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか	6	1	0	1
<p>該当者8人のうち6人(85.7%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。</p>				

組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7、8)

共通評価項目	
カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定
サブカテゴリー1(1-1)	
事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 9 / 9	
評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点()	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <input type="radio"/>非該当
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点()	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <input type="radio"/>非該当
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点()	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える <input type="radio"/>非該当
カテゴリー1の講評	
事業所理念の周知徹底 法人全体での理念として「保育の理念」を定めている。この理念は利用者に対しては「入園のしおり」や「園のしおり」などで表明して配付しているほか、入園説明会や保護者懇談会の機会を利用して説明することにより、周知を図っている。また職員に対しては保育課程や「BBハンドブック」(保育マニュアル)を全職員(非常勤を含む)に対して配付しており、年度当初の職員会議で読み合わせを行うなどして確認を行っている。	
経営層の責任遂行 運営委員(園長・ブロックリーダー・総務など)をはじめとした経営層の役割については、「BBハンドブック」において具体的な業務内容と責任の所在を示しているほか、園長不在時の代行責任者などを明示しており、全職員に周知されている。なお年度当初の職員会議では、内容の確認と徹底も行われている。	
重要案件の決定手順の明確化への取り組み 当法人では主任を置かないこととし、各ブロックにおけるブロックリーダーを設置しており、その役割は「BBハンドブック」の中で明示されている。重要案件の検討・決定にあたっては職員会議や運営委員会などの各種会議において行われることになっており、各会議の位置づけや役割などについても、「BBハンドブック」の中で明示されている。決定内容を利用者に伝える手法としては、園便りのほかクラス懇談会や全園懇談会などの機会を通じて説明を行うなどの取り組みを行っている。	

カテゴリ-2	
2	経営における社会的責任
サブカテゴリ-1(2-1)	
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4 / 4
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	評点()
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している ○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる ○非該当
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	評点()
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる ○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している ○非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 7 / 7
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある 評点()		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○非該当
評価項目2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している 評点()		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当
評価項目3 地域の関係機関との連携を図っている 評点()		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当
カテゴリー2の講評		
職員倫理・ボランティア等の受け入れ 保育課程の中の「職員綱領」という内容で、職員倫理について明示されており、年度当初の職員会議では読み合わせを行っている。また、ボランティアの受け入れに際しても保育課程の中でその内容と役割分担が定められており、年間でボランティア2名、実習生8名(21年度)の受け入れ実績がある。なお受け入れ時には、重要事項に関するオリエンテーションを行い、誓約書を受け入れ時に徴することとしている。		
地域活動・地域への情報 地域の子育て経験者で構成された「ひろばさくらんぼ」による親子サロン「びーだま」(週4日、各5時間)による子育て家庭の支援を行っており、登録者が約300名、利用数はのべ3,500組を超えている。その際には年10回の食事相談もっており、毎回10件程度の相談を受け付けている。ホームページを活用して当園の内容を公表したり、地域向け情報誌「プレーメンの庭から」を年10回、各回500部程度発行して地域関係機関(児童館、市役所など)に配布して周知している。また、雑誌やメディアの取材などを多く受け入れている。		
地域のネットワークへの参画 具体的に連携が必要とされる場合には、市内全域での連絡ネットワーク協議会を活用して連携する体制を整えており、必要に応じて職員間の連携が図られている。また事業者が実務的・効果的に参画できるネットワークが地域に存在しないため、地域の児童館や民生委員との交流・連携を積極的に進めようとする取り組みを行っている。		

3	カテゴリ-3
利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
サブカテゴリ-1(3-1)	
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	
サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 8 / 8	
<p>評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) 評点()</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている ○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる ○非該当
<p>評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる 評点()</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる ○非該当
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している ○非該当
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる ○非該当
<p>評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している 評点()</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる ○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる ○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している ○非該当
カテゴリ-3の講評	
<p>苦情解決制度の積極的な実施 苦情解決制度が整備されており、第三者委員も設置されて制度の概要が玄関に掲示されるなどの周知が図られているほか、ホームページにも掲載されている。また投函された苦情については、お便りなどを活用した回答・周知活動に取り組んでおり、「BBハンドブック」によって職員にも周知が図られている。なお日常の意見・要望については、口頭または「子育てノート」(連絡帳)で収集される機会が多く、個別に対応を行っている。</p> <p>利用者意向の把握と活用 利用者調査を毎年実施しており、その結果をまとめて職員会議で情報共有及び対応策の検討に取り組んでいる。また、寄せられた意見・要望に対する園の考え方・取り組みについての文書を配付することにより、利用者へのフィードバックを行っている。保育参加時には感想を収集したり、個人面談で意思疎通を図りながら個別に対応を行っている。</p> <p>地域からの情報収集・情報公開 親子サロン「びーだま」における報告書に記載されている要望から地域の情報などを収集しており、そこで寄せられた意見に基づいて「食に関する相談」などの新たな取り組みに活かすようにしている。また業界における情報などは各種情報誌のほか、職員会議においてこれらからの保育制度などに関する説明会を行ったり、地域における待機児童数などの資料を作成して現状把握に努め、必要に応じて職員との情報共有もを行っている。</p>	

カテゴリ-4	
4	計画の策定と着実な実行
サブカテゴリ-1(4-1)	
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	
サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 11 / 11	
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している 評点()	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 年度単位の計画を策定している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる <input type="radio"/>非該当
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している 評点()	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している <input type="radio"/>非該当
評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる 評点()	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にすることの取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる <input type="radio"/>非該当

サブカテゴリー2(4-2)		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		4 / 4
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		評点()
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	○非該当
◎あり ○なし	3. 事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当
◎あり ○なし	4. 事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>中・長期計画策定に向けた取り組み</p> <p>中・長期計画立案に向けた、5年単位・15年間の計画の素案が示されており、今年度から法人内の4園からの立候補ないしは任命による12名の委員からなる「中長期計画試案検討会」を発足させ、中・長期計画の完成に向けた新たな取り組みを開始している。この検討会では、来年3月に試案を策定することを目標に、毎月1回の定期的な討議を重ねている。今後予定どおりにさらに詳細な中・長期計画の立案が実現されることが期待される。</p> <p>年間事業計画と実行計画の策定と実行</p> <p>現在の年間事業計画は、施設ごとの運営計画として策定されている。中・長期計画自体が2011年度からの実行を想定しており、今年度については中・長期計画と年間事業計画の連動性は確認できない状態にあるため、今後の「中長期計画試案検討会」における議論の進捗が期待される。年間事業計画の進捗状況については「経過報告」として概ね四半期に一度の理事会において報告がなされている。なお、日常の業務遂行については「年間予定表」が策定された上で「委員会・係担当一覧表」において担当者が定められている。</p> <p>安全確保への取り組み</p> <p>運営委員を中心とした「安全衛生委員会」が組織されて月1回の定例会議が実施され、情報共有が行われている。この委員会では、毎日実施する園庭見廻りや月1回実施される事故防止チェックなどをもとに再発防止策が検討されたり、各種訓練の反省などが行われる。また「インシデント報告書」を活用した事故情報の収集を行って委員会や毎日のミーティング・職員会議などの機会を利用して情報共有を図ることにより、再発防止への注意喚起を行っている。また各種防犯機材の整備などを初め、適切な対策を行っている。</p>		

5		カテゴリ-5	
5		職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ-1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 8 / 8	
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている		評点()	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる		評点()	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している		○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている		○非該当
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している		○非該当

サブカテゴリー2(5-2)		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる 評点()		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる 評点()		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
カテゴリー5の講評		
理想の職員像の明示と徹底・職員採用・職員配置 「BBハンドブック」の中に「職員として心がけたいこと」として、子どもとの接し方や保護者対応など、当園の求める職員像が列挙されており、年度当初の職員会議においては確認を行っている。採用にあたっては、論文・アンケート・面接によって行い、当園の状況に合わせて必要な人材を確保しているほか、職員配置に際しては、職員の希望アンケート、ヒアリングのうえ園長が案を作成、職員の討議を経て会議で検討することとしており、職員の希望や意見を採り入れた上で園長が決定することとしている。		
職員の育成手法 「職員としての育ち合い」(ファシリテーションプログラム)を職員育成の柱として位置付け、「エピソードを語る会」等自由な発表の場を確立して、職員個々の育成マネジメントに取り組んでいる。3月に前年度設定したテーマの到達度合や今年度のテーマ設定を行った上で個人面談を行い、この場を利用して前年度の業務の振り返りなどが行われる。また参加すべき研修会については職員の希望をもとに決定することとしており、研修報告も記録・整備されている。研修に参加した場合にはこの研修報告を全常勤職員に配付して情報共有化を図ることとしている。		
職員処遇と福利厚生・非常勤職員の情報共有化 職員のメンタルケアを目的としたカウンセラーを導入したり、希望者には操体(専門家による体のゆがみの矯正)による体調管理等の配慮を行っている。また非常勤職員との情報共有についての問題意識を持っているが、職員配付物は原則として常勤職員と同じものを配付しているほか、全職員用のウォールポケットを利用したり、年度初めには非常勤のみの会議を実施するなどして、情報の共有化を図っている。		

7	カテゴリー7
情報の保護・共有	
サブカテゴリー1(7-1)	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7 / 7	
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる 評点()	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している ○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している ○非該当
●あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している ○非該当
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している 評点()	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している ○非該当
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している ○非該当
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している ○非該当
●あり ○なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている ○非該当
カテゴリー7の講評	
個人情報保護への取り組み 個人情報保護規程が整備されており、ホームページにも掲載されている。利用目的は各種情報収集時の様式にそれぞれ明記されており、適切な運用が行われているとともに、開示請求に関するルールは個人情報保護規程の中に明示されている。なおボランティアや実習生からは、個人情報保護に関する誓約書を徴するなどの取り組みを行っている。また、事務室・職員室の休日・夜間の侵入防止のための設備も整えている。	
アクセス権限の設定 PCはLANを組んでいるが、パスワード等を設定することによってアクセス制限を行っているほか、重要な紙情報のうち必要なものには書棚において施錠を行うなどしている。今後はさらに保護強化に努めることが必要という意識を持っている。	

カテゴリ-8	
8	カテゴリ-1～7に関する活動成果
サブカテゴリ-1(8-1)	
前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリ-1で評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ-1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ-2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ-4:「計画の策定と着実な実行」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
組織運営に関するさまざまな取り組みへの着手 平成21年度に保育課程の策定にあたり、「職員のためのしおり」をもとに新たなシステムを構築したり、ブロックリーダー制度を導入するなど、組織改革を意識したさまざまな取り組みに着手している。さらに今年度から「中長期計画試案検討会」を発足させて、23年3月の策定を目指している。また地域における連絡ネットワークの形成に向けた取り組みもやっている。	
サブカテゴリ-2(8-2)	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリ-5で評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ-5:「職員と組織の能力向上」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
保育の質の向上・確保に向けた書類等の整備 保育課程や「BBハンドブック」といった、全職員で共有すべき基本事項についてとりまとめ、それを非常勤職員を含めた全職員で共有できるように配付、見直しを行うといった取り組みを開始している。	
サブカテゴリ-3(8-3)	
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリ-6で評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ-6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ-7:「情報の保護・共有」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
職員間の理解共有に向けた保育課程の読み合わせ、一時保育向け「子育てノート」の改善 職員間の理解共有と基本事項の徹底に向け、今年度は年度当初に園の保育課程の読み合わせを実施している。また一時保育利用者向けの「子育てノート」(連絡帳)を、これまでの一般的なノート形式から複写式の所定の様式に改め、必要な情報を確実に把握するとともに、園でも管理できるようにしている。	

サブカテゴリ-4(8-4)

事業所の財政等において向上している

評価項目1

財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

予算の適正な執行、コスト意識の徹底

予算の適正な執行とあわせて、裏紙の使用や水道使用量の記録などを通して職員にコスト意識の徹底を図っている。

サブカテゴリ-5(8-5)

前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

・カテゴリ-3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

改善の成果

利用者満足・地域意向の収集のための取り組み

親子サロン「びーだま」は地域の子育て経験者で構成された「ひろばさくらんぼ」によって実施されており、その報告書を活用して情報収集が行われているほか、利用者調査の結果には園の考え方をコメントして利用者にはフィードバックするなどの取り組みを行っており、翌年度の活動にも活かしている。

サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

共通評価項目	
サブカテゴリ-1	
1	サービス情報の提供 サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4 / 4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している 評点()	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している <input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-1の講評	
<p>「園のしおり」やホームページ、ブログを通じた園の思いや保育の特色の紹介 同一法人のバオバブ保育園(以下「おおきな家」と共通のパンフレット(「園のしおり」)を作成し、入園希望者や来訪者に配付している。シンボルツリーであるバオバブの紹介、デイリープログラムや年間行事のほか、保育目標や心がけている保育の方針、食事サービスの特色など、園の特徴や保育提供の考え方を詳細に伝えている。ホームページは法人運営4園合同で開設し、各園の保育の特徴や地域支援事業について、画像も活用して掲載しているほか、園のブログも開設し、毎日の保育のひとこまを写真とコメントで伝えている。</p> <p>行政との連携や地域資源の活用による情報の発信 市役所でパンフレットを常時配布しているほか、市主催の保育所合同説明会に参加して専用ブースで説明・展示を行ったり、市発行の保育所案内に情報を掲載するなどしている。また地域向け広報紙「プレーメンの庭から」(年10回発行)を地域の健康センター(保健所)・児童館などで配布している。園入口の沿道には地域向けの掲示板を設置し、地域支援事業や園の行事の案内を掲示しており、行事の際には児童館などでもポスターを掲示している。</p> <p>来訪者の要望をふまえ、園の特色や考え方を詳しく伝える見学受け入れ 見学は要望に応じ、園の保育の流れや活動に配慮しながら、基本的には午前10時半～11時半頃を目処に受け入れ、午睡時間帯や土曜日の見学にも対応している。当日は総務または園長がパンフレットに沿って保育の考え方や特色、デイリープログラムや食事、「おおきな家」との連携などについて説明し、各保育室で保育の様子を見てもらっている。各室内の環境設定の考え方やおもちゃの紹介、園庭で育つ果物や野菜など、低年齢児の保育や園としての特徴・方針のほか、地域支援「びーだま」の紹介もして、入園前にも園を体験できることを伝えている。</p>	

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6 / 6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点()	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している		評点()	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2の講評			
入園時の説明と面接による個別状況の把握 内定後、「保育予備調査票」「生活状況調査票」など保護者の記入書類とともに案内を発送、「おおきな家」と合同で説明会を実施、「入園のしおり」に沿って園長・保健担当・保護者会代表が説明するとともに、担当保育士や総務も加わって質疑応答を行っている。説明会后、同日またはその後の期間に各保護者と面接を行い、準備物や通園に際しての利用のアドバイスなどを伝えるとともに、それぞれの子どもや家庭の状況を把握している。面接は保護者との最初の顔合わせの機会となるため、可能な限り各年齢の担任全員が参加している。			
一人ひとりの支援に向けた情報の記録・共有と保護者との同意確認 入園時に保護者が記入する「保育予備調査票」「生活状況調査票」から個別の情報を把握するとともに、個別の面接はそれぞれ内容を記録している。それらをもとに各園児の児童票を作成、一人ひとりの情報を管理するとともに、把握した個別の子どもや家庭の状況は「ちいさな家会議」で関係職員間の共有を図っている。面接時の説明と質疑によって、利用開始や説明内容について口頭で同意を確認するほか、ホームページや取材での写真掲載、緊急時の連絡方法や緊急連絡網への記載については書面で意思確認をしている。			
短時間保育や家庭との連携による入園時の子どもの負担軽減、利用終了後の支援 個別の計画をもとに実施する短時間保育、保護者の保育所体験など、入園時の子どもや保護者のストレス軽減を図っている。低年齢児対象、小規模という園の特性をふまえ、個々の生活リズムの把握や家庭生活との連続性に配慮するほか、登降園時の保護者の表情にも気を配り、適宜声かけするなどしているとのことである。「おおきな家」への移行時には保護者と面談を行ってスムーズな進級につなげ、他にも卒園・転退園世帯への「バオバブ通信」の送付など、利用終了後の支援の継続に努めている。			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12 / 12
3	個別状況に応じた計画策定・記録		
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点()	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している		評点()	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画を保護者にわかりやすく説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたくうえで、必要に応じて見直ししている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している		<input type="radio"/> 非該当

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点()
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点()
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー3の講評		
<p>法人独自の「BBハンドブック」と保育課程に基づく保育の計画及び実践・記録</p> <p>法人の保育のベースとなる「BBハンドブック」に加え、21年度に保育課程を作成、園の使命や保育者の使命、年齢別の保育の重点項目等が詳細に記述され、それらをもとにして年間計画を立てている。計画の立案・記録には一部課題が見られるが、年間・月案・週案を作成し、日誌に日々様子を記録しているほか、半期分反省及びクラステーマ(年度ごとにテーマを決定)の中間報告(「エピソード記録」)をまとめ、職員間で共有したり、毎日の10分間ミーティングで子どもの状況報告を行い、全職員が園児の状況の把握に努めている。</p> <p>個々の子どもの育ちを尊重したきめ細かな配慮への取り組み</p> <p>子どもの状況については、入園時の面接・個人面談(年2回)・グループ面談・状況に応じた家庭訪問を実施すると共に、日々様子は「子育てノート」(連絡帳)や送迎時に把握している。面談記録はクラスごとにまとめ、職員間の共有につなげている。子ども同士のぶつかり合い等のトラブルが生じた場合には、送迎時に面談をして報告をするなど、保護者の不安を軽減するためのきめ細かな配慮に努めている。またクラス懇談会にて園のテーマや計画について説明、クラス便りにて周知する等、保育への理解を図っている。</p> <p>子どもの育ちに関する職員間の共有化に向けた独自の工夫</p> <p>月1回の保育会議にて前月の振り返りと次月の計画の検討を行うと共に、年度途中で中間の振り返りを実施、半期に一度クラスの状況を確認する機会を設けている。また「エピソードを語る会」を年6回実施、子どもの日々の活動の様子を報告する中で、子どもの姿から感じることを職員相互に話し合い、自由に保育を語る機会としている。このことにより、各職員の保育や子どもの発達に対する見識や探究心をより深め、日々の保育での子どもの関わり方につなげる等、一人ひとりの子どもの成長を大切に保育の実践を行っている。</p>		

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	7 / 7
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点()	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点()	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている		○非該当
◎あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
◎あり ○なし	4. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している		○非該当
◎あり ○なし	5. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている		○非該当
サブカテゴリー5の講評			
<p>プライバシーや個人情報の保護等のためのさまざまな配慮</p> <p>子どもの情報を外部とやり取りする必要がある場合には、法令に基づくもの以外は保護者の同意を得るようにしている。またそれぞれの価値観や生活習慣についても、個別に面談を行う中で、園でできる限りの支援を行っている。個人情報保護については、保護者への周知に一部課題があるものの、「入園のしおり」等に記載し、入園当初の個人面談でも登降園時の情報把握について説明を行っている。また0歳の送迎スペースではおむつ替えのコーナーを出入口から直接見えないように設置する等、環境への配慮を行っている。</p> <p>子ども一人ひとりの尊重や個々の家庭への支援に向けた組織としての取り組み</p> <p>法人運営4園共通の職員規範である「BBハンドブック」や保育課程と「バオバブ保育園職員綱領」などの中で、一人ひとりの尊重など職員としての基本姿勢を明示し、非正職員を含め、年度当初の会議で確認するとともに、それぞれの子どもとの状況や配慮については「ちいさな家会議」で情報共有している。個々の家庭の事情等は日々の交流や面談等で把握し、個別に必要な支援を行うとともに、必要に応じ、関係機関とも連携した見守りを行っている。「BB～」や保育課程に関しては、作成時と入職時に研修や読み合わせを行っている。</p> <p>虐待の早期発見と適切迅速な対応に向けた体制整備</p> <p>「BBハンドブック」中に「困難な問題を抱えた家庭への支援」として章を設け、家庭支援や虐待への早期対応について言及している。発見や報告・連絡等については特にマニュアル等はないが、気になる点があった場合はその日の昼の打合せで報告され、共有が図られるほか、必要な場合には関係機関との連携も取られている。また外部講師を招いてのCAP(虐待防止プログラム)研修の実施や関係機関による連絡会議への参画など、体制を整えている。</p>			

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	11 / 11
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点()	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点()	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		評点()	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー6の講評			
<p>職員として求められる考え方や手順等を網羅した「BBハンドブック」 法人において「BBハンドブック」を作成、遊びと活動、保護者との関わり、食事・食育、保健・安全、地域の子育て支援、職員同士の関係と園の運営など計7章で構成され、法人運営園の職員として必要な現場実践における知識・手順等がまとめられている。また保健衛生に関するマニュアル類を法人内他園と合同で整備し、各クラスに常備している。基本事項の徹底に向け、今年度は年度当初に園の保育課程の読み合わせを実施するほか、非正職員に対して、書面配付と説明によって園としての基本事項を伝える取り組みも毎年行っている。</p> <p>定期的な振り返りの機会と内外の研修等による職員の資質向上 毎年度末に全職員が行う反省では、年間の取組状況や年度当初に設けた自身のテーマの達成度を振り返っており、別に日常の保育実践について、年間指導計画に基づく振り返りを年2回実施、園全体で反省を行っている。また職員の研鑽に向け、各人が年度当初に設定したテーマに準じた外部研修に参加しているほか、法人4園や「おおきな家」と合同の外部講師を招いた研修、日常保育で見られたエピソードや子どもの姿について語り合う年6回の「エピソードの会」など、資質の向上に努めている。</p> <p>安全衛生委員会が中心となって行う、安全な保育提供のための取り組み 職員参画による安全衛生委員会の取り組みとして、散歩で訪れる公園などについては場所ごとに危険箇所を明示したマップを作成するほか、園内外の安全点検をチェックリストを用いて毎月実施し、その結果の検討や各種訓練の反省を行っている。また同委員会では防災・防犯関連の点検や訓練開催などのほか、今年度は各室内で備品の落下防止に向けた補強を行うなど、随時の改善にも取り組んでいる。危険事例や事故・ケガについては、「インシデント報告書」「事故報告書」の提出と会議や毎日の打合せを通じた共有により、予防と再発防止につなげている。</p>			

サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

サブカテゴリ-4

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況 37 / 37

1 評価項目1

子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている

評点()

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけることができるよう、環境構成を工夫している	○非該当
◎あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助している	○非該当
◎あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
◎あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当

評価項目1の講評

子どもの状況に応じた物的環境及び人的環境への配慮

子ども一人ひとりの育ちを大切に保育への取り組みとして、子どもの状況や発達に応じて小グループ制にて保育を行っている。また保育環境への配慮として食事・排せつ・睡眠・活動が別々に行えるように環境構成を工夫し、どの部屋もままごと・絵本・畳のコーナー等、子どもの発達に配慮した玩具を設置、子どもの状況や発達に応じて各コーナーを活用し保育を行ったり、子ども自身が自ら選び、その場所で集中してさまざまな玩具を使用して活動できる等、子どもの発達やその日の状況に応じて十分に活動が展開できる環境を整えている。

同法人園との交流やクラスを超えた取り組みによる子どもの発達援助

2歳までのを預かる園であるため、プレイデーや夏祭りなど同一法人の「おおきな家(バオバブ保育園)」の合同行事を通じ、3歳以上の子どもと関わる機会を設け、「おおきな家」の子ども達が描いた案内のポスターを園内に掲示する等、交流の機会が楽しいものになるように工夫を施している。また園内での活動では、個別の状況によって他のクラスと過ごしたり、合同で保育を行う等、クラスを越えてさまざまな活動をフレキシブルに行い、子どもの育ちを保障している。その際には担当以外の職員の協力も得て実施する等、園全体で協力体制を整えている。

個々の子どもの状況や発達に応じたきめ細かい対応や配慮

一人ひとりの子どもの違いを認め、配慮を要する子については午睡の時間を活用してクラスで話し合いを行い、共通理解を図ると共に、月1回の保育会議にてクラス以外の職員の間でも連携を図り、個別対応への取り組みを行っている。また発達過程による子ども同士のぶつかり合いは子どもの育ちの一環としてとらえ、そのつど子どもの気持ちを受容しながら、発達に応じたきめ細かい対応を図るほか、部屋で活動を行う際には、個々の状況に応じて活動を別にする等、子ども達一人ひとりが自分のペースで活動を行える環境を提供している。

2 評価項目2

家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている

評点()

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう支援している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2の講評

個々の状況に応じた家庭との連携による子どもの発達支援

トイレトレーニングや箸の使い方の習得など、必要に応じて家庭と連携を図りながら実施するものに関しては、随時保護者に状況を伝えて共通理解を図ると共に、懇談会や面談を活用し、情報交換しながら進めている。また子どもの発達については保護者にとっても関心の高いところであるため、基本的な生活習慣の大切さ等、送迎の際に話をする機会を意識的に設けているとのことである。年度当初の懇談会でも子どもの育ちについて保護者へ伝える等、保護者との共通理解を深める取り組みを積極的に行っている。

一人ひとりの支援につなげる職員間の共有と家庭との連携

全園児対象に「子育てノート」(連絡帳)の記入を行い、家庭での様子をクラス担当者が把握すると共に、送迎時にはその日の様子について一人ひとりの保護者に直接伝えている。小規模園のメリットを活かし、職員間の共通理解も毎日の10分間ミーティングなどを通じ、クラスの枠を超えて行うことができ、担当以外の職員も子どもの状況を把握した上で保護者への対応を行えるようにしている。また家庭で就寝時間が遅くなるケースがある場合など、昼寝を短めにしては早めに起こす等、個々の生活状況に応じたきめ細かな対応に努めている。

子どもの発達援助や生活習慣確立に向けたさまざまな工夫

食事・排泄等の基本的な生活習慣の確立に向けて、1歳より着替えがストックされている棚は、子どもの手の届く位置に自分用のマークで特定されており、子どもが自ら着替えを取り出せるようにしている。また着替えの際には着脱用のいすを設置し、着替えがスムーズに行えるようにする等、発達に応じた配慮をしている。個別の状況については個人面談時(年2回実施)に把握し、日々の「子育てノート」で家庭と連携を図りながら進めている。また職員も常に「BBハンドブック」で子どもの発達状況や援助の仕方等を確認できるようにしている。

3 評価項目3		日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点()
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の内容は保育目標を反映して構成されている			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じることができるような視点を取り入れている			<input type="radio"/> 非該当
評価項目3の講評				
<p>個々の子どもの情緒の安定に向けた細やかな取り組み</p> <p>1・2歳には保護者が手作りのぬいぐるみを作成し、それを個人の玩具としてウォールポケットに個別に入れてセッティングしている。子ども達は自由にぬいぐるみで遊び、昼寝の際には抱っこして寝ることができるなど、子どもの情緒を落ち着かせ、集団生活の中でも一人ひとりが自身のものを持つ配慮をしている。0歳に関しては年度後半にそれぞれの保護者が手作りしたカードを絵本棚に設置し、子ども達が自由に見ることができるとともに、子ども同士でも「お友達のもの」という意識を持ち合っている姿が見受けられるとのことである。</p> <p>3歳以降へのつながりも考慮したさまざまな集団活動などの工夫</p> <p>2歳は全員で沖縄のアダンの実を用いて布に自由に絵具で描き、作品として仕上げ、部屋の天井に天蓋として、またタペストリーとして部屋の壁に飾る等、個別の活動だけではなく、集団で行う活動も積極的に採り入れている。また天気の良い日は近隣の公園や多摩川に向き、四季折々の自然を感じながら過ごしているほか、2歳は「おおきな家」に行って活動を行っている。3歳以降は「おおきな家」に移行していくため、日頃より進級がスムーズに行えるようにという配慮から、日々の保育の一環として行っている。</p> <p>豊かな自然環境を活かした栽培・調理等の取り組み</p> <p>園庭には実のなる木がさまざまにあり、四季の変化と収穫を楽しむことができる自然豊かな環境を整えている。また2歳が中心となって栽培を実施、季節に応じた野菜を植え、トマト・キュウリ・サツマイモ等の収穫した野菜については、食べて味わったり、サツマイモを子ども達が包み、厨房で焼いて食す機会を設けるなどしている。また季節に応じてトウモロコシの皮むき・梅ジュース作り・寒天ちぎり等も経験し、梅ジュースは玄関に展示し、できあがる過程を楽しむ等、さまざまな取り組みを行って、子どもの生活や遊びが豊かになる工夫をしている。</p>				

4 評価項目4 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている		評点()
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが興味を持ち、自ら進んで取り組めるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 行事等を行うときは、保護者の理解が得られるような工夫をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保育所の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>さまざまな行事を通じた「おおきな家」との交流</p> <p>「パオパブ祭り(夏祭り)」「プレイデー(運動会)」「パオパブフェスタ(バザー)」は「おおきな家」と合同で実施、また同園で実施する「劇とうたの会」には2歳が参加し、歌の披露を行う等、交流を深めている。「パオパブ祭り」では2歳が親子と一緒に神輿の雰囲気を感じ、5歳の太鼓を見たり、盆踊りを保護者と楽しむなどし、「プレイデー」では子どもに何かをやらせようとするのではなく、親子で楽しむことを目的として実施、各クラスで手遊びや運動遊び等を親子で行い、「おおきな家」の親子とともに、一緒に楽しく過ごせるプログラムとしている。</p> <p>全園児で楽しむ「ミニ音楽会」と保護者の行事への理解を図る取り組み</p> <p>「ミニ音楽会」を年5回実施、歌や手遊びを楽しみ、ピアノ演奏を聴くなど、全園児で音楽に触れる機会を設けている。その際には一時保育の子ども達も一緒に参加できるようにしている。保護者には年度当初に行事の年間計画を配付し、予定を知らせると共に、園便り・クラス便りを通して行事や園内での様子を知らせたり、写真を掲示する等、日々理解を得られるように努めている。また新入園児の家庭には、行事について年度当初に話をするほか、個別に話をする機会を設ける等、低年齢児対象の保育所ならではのきめ細かい対応に努めている。</p> <p>地域の人たちとのさまざまな交流の機会と子どもの成長</p> <p>中学生の職場体験やボランティアや実習生の受け入れを行っているほか、地域の子育て支援をこれから行う方の実習としての受け入れを行い、子ども達と一緒に遊ぶ機会としている。さまざまな人との関わりの中で、子ども達も人見知りすることなく、自分から声かけをする姿が見られたり、散歩に出かけた際に地域の人達へ挨拶する等、外部の人との触れ合いを通して子どもの成長をさまざまな場面で感じられるとのことである。またお米の生産農家の方を招いて餅つきを行う等、多彩な取り組みを通じて子どもの日々の生活を豊かなものにしていく。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点()
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるよう配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもの様子を確実な方法により職員間で引き継いでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. お迎え時には、子どもの日中の様子(担任からの引き継ぎ事項等を含む)を保護者に直接伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目5の講評		
<p>長時間の保育の中で、環境を落ち着いたものにするための工夫 園児は長時間を園内で過ごすため、日中より部屋での活動に限らず、0歳はベランダに出て日向ぼっこや玩具遊びを楽しみ、廊下に遊具を出して遊ぶなど、さまざまなスペースを活用して遊びが展開できるようにしているほか、各部屋にも畳のスペースやソファを設置して、くつろいで過ごすことができるように配慮している。また活動の内容によっては、他クラスの子とも達と一緒に活動したり、コーナーごとにさまざまな保育を行う等、保育環境を有効に使用しながら、子ども達がゆったりと過ごせるように配慮している。</p> <p>さまざまな環境作りによる延長保育や送迎の際の親子のくつろぎ 延長保育は一時保育室を利用し、異年齢で行っているが、日中使用する部屋にて保護者が帰り支度を行った後、一時保育室へ迎えに来るため、子ども達も保護者が迎えに来るまで落ち着いて活動しながら過ごすことができる。また保護者同士の交流も気兼ねなくできるようになっているとのことである。また玄関ホールには絵本を子どもと一緒に読める親子の交流スペースとして椅子とテーブルを設置し、送迎の際に子どもと一緒にゆっくり過ごすことができる。園で飼っている九官鳥の飼育も、日常保育のみにとどまらない親子との交流の機会となっている。</p> <p>延長保育実施にあたっての保護者とのコミュニケーション等の配慮 延長保育実施に向けた配慮として、ローテーションに工夫をして、毎日ではないが、担当職員が延長の時間の保護者の送迎の際にも顔を合わせることができるようになっている。合同保育の時間についても保育日誌に記録し、適宜次の日に報告している。送迎時の配慮として、担当職員からの報告について、直接担任が保護者へ話せない場合には「子育てノート」を活用したり、電話連絡を行うなどして、子どもの状況を伝えるようにしている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点()
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保育所の食育に関する取り組みを、保護者に対して伝える活動をしている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目6の講評		
<p>食材にこだわった食事の提供と発達や個別状況に応じた献立の工夫 自然の風土に根ざした食生活をめざし、季節に応じた食材を採り入れ、薄味にして食材のもつ味を感じられるよう配慮し、和食を中心としながら子どもが食べやすい献立を作成する等、さまざまな工夫をしている。また山形の農家との提携により、「生産者が見える」食材を提供、生産者の写真や職員との交流の写真をコメント入りで掲示して、保護者へ食の安全を伝えている。またアレルギー児には個別の献立表で対応したり、体調が悪い子どもにはおかゆ等に変更するといった、園でできる限りの対応を個々の子どもの状況に応じて行っている。</p> <p>家庭の雰囲気を大切にしたい食事の時間のための配慮 配膳する際には、ご飯はおひつで、おかずは陶器の食器に分けて子ども達に提供、食べたい量を子どもに聞きながら取り分ける等、個別の配慮を行いながら、極力家庭の雰囲気に近い形で食事を行う工夫をしている。また0・1歳は緩やかな担当制をとり、担当の職員が子どもの状況に応じて授乳や食事を提供するように配慮している。また玄関先にシートを敷いて食べたり、パンなどの食べやすいものが出た時には外のベンチで食べる等、食事の時間が楽しくなるようなさまざまな工夫をしている。</p> <p>子どもや保護者の食への理解や関心を深めるさまざまな食育の取り組み 年間食育計画では、一部に課題はあるものの、調理室や保育との関わりについての配慮点等を詳細に立案し、子ども達の給食が充実するように努めている。また2歳については透明の容器に入れてお米を炊き、炊き上がる様子を観察する等、食への興味や関心につなげる活動を行っている。給食のレシピを自由に持って帰れるように設置したり、個別保育参加の際に、離乳食の試食や子どもと一緒に給食を食べる機会を設けたり、行事後に給食の試食を行う等、さまざまな機会を利用して、保護者にも園の食事への関心を深めてもらうようにしている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている		評点()
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携に基づく支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目7の講評		
<p>ケガや病気、虫歯などの予防に向けた、日常保育の中での子どもへの啓発 園舎・園庭の危険箇所、園外活動中の交通ルール、公園などでの安全確保については、日常の保育の中で随時子ども達に伝えており、散歩で訪れる公園などについては場所ごとに危険箇所を明示したマップを作成している。また保育と連携し、手洗い指導による衛生管理や感染症予防によって子どもに啓発しているほか、避難訓練の際の安全な歩き方の指導など、発達に応じて取り組んでいる。</p> <p>小規模園としての特性もふまえた子どもの医療的支援の取り組み 専門機関との連携が必要な既往症のある子どもは在籍していないが、必要な連携は取れる体制にある。園医による年2回の全年齢対象の健診や毎月の定期健診などで子どもの状態を定期的に把握し、健康上の配慮が必要な子どもは一覧化して看護師が管理、支援に活かしている。第1子が多く、保健に関する子育てでの疑問や不安を抱える保護者が少ない園の特性から、「子育てノート」などから質問を随時募り、適宜、園医の助言を受けるなどしているほか、小規模園のメリットを活かして、細やかな状況把握に努めている。</p> <p>感染症やSIDSの予防などに向けた保護者への情報提供 感染症の発生時には玄関や各保育室など複数箇所で情報を掲示している。また保健便りを看護師が作成、毎月の感染症の発生状況、時季ごとの流行性疾患、虫除けなど、折々の保健トピックを掲載している。看護師は必要に応じて入園時の面接に同席し、子どもへの保健面での支援について、状況や配慮について把握している。SIDS予防については入園時健診や懇談会の際に話をするとともに、年度当初に書面を配付して注意を促しており、保育中の睡眠時の呼吸などについて、0歳に10分間隔で確認を行っている。</p>		

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援している

評点()

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して接している	○非該当
◎あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
◎あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
◎あり ○なし	4. 保育所の保育に関して、保護者の考えや提案を聴く機会を設け反映させている	○非該当
◎あり ○なし	5. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当

評価項目8の講評

保護者の子育てや就労等の事情に配慮したさまざまな工夫と配慮

入園時の情報収集以降、毎日のコミュニケーションや「子育てノート」、概ね各世帯年2回行う個人またはグループによる面談、必要に応じた家庭訪問などから、個々の家庭の事情や子どもの様子を把握している。情報は記録に残すとともに、計画や児童票にも記載し、個別支援につなげている。行事は主に土日に開催するほか、面談の日程は個々の家庭の都合に応じて個別に設定、保護者と職員による「ぞうの会」の役員会も夜間に行い、実施中には同会の運営費から支出して参加者の子どもの保育も提供するなど、さまざまな面で保護者の就労等に配慮している。

懇談会や保育参加、「ワークショップ」などを通じた保護者との交流と共通理解

各クラス年2～3回の懇談会のほか、保育参加を随時実施し、子どもの発達や育児に関する保護者との共通理解につなげている。また今年度は「ワークショップ」として保護者同士及び園と保護者の交流を図る機会を設け、2歳児も加わっての家具の磨き掃除や給食メニューの会食、職員と父親が演奏するミニライブなどを実施している。「バオバブ祭り」「プレイデー」「バオバブフェスタ」など2園合同の親子参加行事は保護者同士の交流とともに、年長児までの異年齢の親子が一堂に会し、親子で成長の見通しや喜びを実感する機会にもなっている。

多彩な手段による情報発信と意向の把握を通じた保護者との信頼関係構築

「おおきな家」と共通の「ばおばぶだより」、各クラスの便り、ホームページやブログ、園内各所での活発な写真掲示など、複数の方法で園の保育の状況や子どもの姿を保護者に発信している。また「子育てノート」や送迎時の会話などから毎日の情報交換を行うとともに、意見箱(「なんでもご意見箱」)の設置、必要に応じた「おおきな家」と合同のアンケートなど、保護者の考えや提案を募る仕組みも整え、保護者との認識共有と信頼強化につなげている。「ばおばぶだより」や「バオバブ通信」に保護者が寄稿するなど、確かな信頼関係がうかがわれる。

9 評価項目9		地域の子育てニーズに即した子育て支援を実施している		評点()
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域における在宅子育てで家庭のニーズに応じた子育て支援事業を実施している			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域における在宅子育てで家庭同士が交流できるような支援をしている			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 提供している子育て支援事業の評価・見直しをしている			<input type="radio"/> 非該当
評価項目9の講評				
<p>一時保育や親子サロン「びーだま」を通じた地域の子育て支援</p> <p>地域子育て支援として、一時保育のほか、親子サロン「びーだま」の取り組みとして絵本の読み聞かせ、育児相談、手遊び・わらべ歌などを提供している。育児相談では、毎週火曜日に保健師と助産師の資格を持つ元職員が担当するほか、園の栄養士が行う月1回の「食事相談」を設けるなど、園の専門性を活用して保護者のさまざまな疑問や不安を解決する体制を整えている。また市や関係機関からの発達支援や育児・保健に関する情報を随時掲示・配付しているほか、「おおきな家」の地域支援「プレーメン」の案内も行っている。</p> <p>さらなる地域支援に向けた事業の評価・見直し、地域への発信や職員の研鑽</p> <p>年1～2回行う地域支援の検討を行う「びーだま会議」や、「おおきな家」と合同の地域支援担当者会議「地域委員会」の中で、「びーだま」の取り組みの報告や反省を行い、見直しにつなげている。「おおきな家」との共通の地域向け広報紙「プレーメンの庭から」を年10回発行し、その月の地域支援の詳細や保健・給食の話題のほか、参加者の寄稿も掲載している。その他、21年度には2園合同による地域支援担当者の研修も実施し、外部講師を招いてカナダの子育てや育児支援について見識を深めるなどしている。</p>				

事業者が特に力を入れている取り組み		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル	食材や献立の工夫や安全に向けた配慮など、食事サービスにおけるさまざまな工夫	
内容	<p>自然の風土に根ざした食生活をめざし、季節に応じた食材や食材の味を感じられる薄味の調理、和食を中心とした子どもが食べやすい献立の作成などのほか、山形の農家との提携により、保護者にとって「生産者が見える」食材の提供に取り組んでおり、生産者の写真や職員との交流の写真をコメント入りで掲示し、保護者の食の安全への関心に応えるなど、食の安心と食の充実に向けた取り組みを行っている。また配膳時にはおひつや鍋を各々のテーブルに置き、温かいまま子ども達に食を提供する等、家庭的な雰囲気を大切にしている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援している
タイトル	園の特性もふまえた「子育てを、保護者とともにすすめる」さまざまな取り組み	
内容	<p>各家庭との面談のほか、年2～3回の懇談会、保護者会「ぞうの会」との共催による各クラスの親睦会、「おおきな家」との合同の全園親睦会、今年度から実施の「ワークショップ」など、保護者同士及び園と保護者が交流し、懇親を深める機会を積極的に設けている。低年齢児対象の小規模園であることや、第1子が多く、子育てに疑問や不安を抱える保護者が少なくないことなどの園の特性もふまえ、日常の細やかなコミュニケーションにも努めており、理念の一つである「子育てを、保護者とともにすすめる」取り組みを積極的に推進している。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み		
評価項目	3-1-2	利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる
タイトル	利用者満足の上に向けた取り組み	
内容	<p>日常の要望事項などの収集は普段の保育活動の中で行っているほか、利用者調査は毎年実施されている。また利用者調査の結果を踏まえて、利用者からの要望事項について保育所の考え方をコメントした文書を作成して保護者に配付するなど、個々の意見に対して丁寧にアクションしている実態が見られる。また地域の子育て家庭も含めた利用者等の要望に対して、具体的な対応にも着手して改善を図っている。</p>	

特に良いと思う点		
1	タイトル	個々の子どもの状況に応じたきめ細かな保育実践のための工夫
	内容	子どもの状況や発達に応じて小グループ制で保育を実施すると共に、集団で使用する玩具以外に、保護者が作成した個別の玩具を自分のものとして愛着をもって使用できるよう設置するほか、食事・排せつ・睡眠・活動が別々に行えるようにするなど、環境構成にも工夫を凝らしている。子どもの状況や発達に応じて各コーナーを活用し、子ども自身が自ら活動を選び、集中してさまざまな玩具を使用できる等、思い思いに自ら意欲を持って活動が展開できる環境を整えるとともに、職員も全園児の状況を共有し、毎日の保育に活かしている。
2	タイトル	親子サロン「びーだま」を拠点とした積極的な地域の子育て支援
	内容	一時保育に加え、乳児の子どもをもつ地域の保護者が、子どもと一緒に予約なしで利用できる親子サロン「びーだま」を開設している。在宅の親子の交流の場としても機能しているほか、在園世帯も利用可能で、読み聞かせや手遊び・わらべ歌などの提供、保健師・助産師の有資格者と園の栄養士が専門的な立場から対応する育児相談などを行っている。広報紙「ブレイメンの庭から」や、保護者に親しみやすく語りかけ、利用を呼びかけるホームページでの案内からも、気軽に立ち寄れる場として地域の子育てを積極的に支援しようとする法人の姿勢がうかがえる。
3	タイトル	調理・保育が連携したさまざまな食育活動による食への関心・意欲の啓発
	内容	年間食育計画のもとで、調理・保育の連携によるさまざまな食育活動を行っている。2歳が中心となってトマト・キュウリ・サツマイモ等の季節に応じた野菜を栽培し、収穫した野菜を味わったり、サツマイモを包み、厨房で焼いて食べるなどの機会を設けるほか、トウモロコシの皮むきや梅ジュース作り、寒天ちぎり等の経験や透明の容器でお米を炊き、炊き上がる様子を観察するなど、年齢に応じて食への興味や関心につなげる活動を行っている。さらに給食レシピの配布や離乳食・給食の試食、子どもと一緒に食べる機会など、保護者への啓発にも努めている。
さらなる改善が望まれる点		
1	タイトル	各計画の整合性や記録の取り方などにおけるさらなる向上
	内容	法人の保育のベースとなる「BBハンドブック」に加え、21年度に保育課程を作成、年間計画を立てている。また半期分の反省及びクラステーマの中間報告(「エピソード記録」)をまとめ、職員間で共有したり、個別配慮に関しても個人別月間計画にまとめている。ただし、計画類に関して整合性が図られていない部分や、記録内容についての課題なども見受けられている。今後はそれぞれの計画立案の意図や目的を明確にするとともに、職員間の認識共有を図りながら、より実践に役立つ内容や記録としていくことを期待したい。
2	タイトル	「BBハンドブック」など、園としての基本事項の一層の理解と実践に向けた取り組み
	内容	非正職員を含め全員が所持している「BBハンドブック」は園の保育や各種業務の基本手順などを示した規範として位置づけられているが、その周知については、現状では作成時の読み合わせ以降、新規入職の職員以外は配付と自主的な参照のみにとどまっており、現場での徹底についての点検や振り返りの仕組みについては、今後の課題と思われる。訪問調査では衛生管理の面で、手順やルールの上なる明確化と周知が望まれる場面も見られており、「BBハンドブック」の見直しとともに、今後の検討を期待したい。
3	タイトル	個人情報の取り扱いに関する保護者とのさらなる認識共有
	内容	個人情報保護規程を整備し、ホームページにも掲載している。保護者には利用目的を各種情報収集時の様式に明記するほか、面接時に口頭で同意を確認するとともに、ホームページや取材での写真掲載、緊急時の連絡方法や緊急連絡網への記載については書面で意思確認をしている。今後はこれらの限定的な明示にとどまらず、現場での実態をふまえ、氏名や生年月日、肖像など個人情報の範囲と用途を明確にし、保護者とのさらなる認識共有を図ることを期待したい。